

「KY」という言葉を知っていますか？

ケーワイ

数年前から女子高生の間で使われる言葉で、意味は「周りの空気（kuuki）が読めない（yomenai）」という意味だそうです。マスコミや政治家までがこの言葉を使って、他人を揶揄する場面も見受けられます。

「周りの空気を読む」ということはどういうことでしょうか。良いほうに解釈すれば周りの雰囲気に合わせて、楽しく過ごすというふうにもとれるでしょう。わが国では、周りの人に同調することを、「和を大切にすることと勘違いしている風潮」があります。本当の意味で「和を大切にする」とは、その和の中にいる人が、一人一人その存在を認められている状態で成り立つものです。したがって、周りの雰囲気と同調することではありません。みんなが周りの人の顔色ばかりうかがっていて、自分の意見を黙殺している状態

が「和が大切にされている」といふことになるでしょうか。決してそうではないはずです。

ところが、前述したように、女子高生の間では、周りの雰囲気と同調しない人のことを、「KY」などといって揶揄する傾向があるのです。もちろん、周りの人の意見に全く耳を傾けず、ひたすらわが道を行く人も考えものです。

大切なことは、集団の中で一人一人が自分の意見を堂々と主張でき、お互いの意見を尊重しながら議論を深めていける状態が作られることが大切なのです。このことが、大げさにいえば憲法が保障する「個人の尊厳」（13条）ということになるのではないのでしょうか。したがって、「KY」などと他人を揶揄し、個人の意見や生き方を封殺する傾向はきわめて危険な傾向だといわざるを得ません。

また、以前に差別語といわれる言葉を、略して使うという差別事象が多発したことがあります。「がい児」という言葉がその典型的な例で、これは「障がい児」という言葉の置き換えとして使われていました。「空気が読めない」という表現は差別的な表現とはいえませんが、略語や置き換えを使うという傾向は類似しており、しかも人を揶揄したり侮辱したりする時に使われるものであり、あまり快い行為とは言えません。

このように日常何気なく使っている言葉も時には点検してみることが大切なのではないでしょうか。

※「障がい」の表記について

近年、障がいの「害」という漢字の与える印象が、課題の正しい捉え方や、人権施策、教育・啓発の効果的な推進の妨げに

なっている面があるのではないかと認識から、「害」の字をひらがな表記とする市町村や施設、サービス事業者などが増加傾向にあるようです。

平成18年につくられた、「南部町における部落差別をはじめあらゆる差別をなくす総合計画」では、その傾向をふまえ、「障害」を「障がい」とすることとし、行政文書における表記のモデルとしました。

第4回人権セミナーのおしらせ

障がいの者の人権

■日時／平成19年10月2日（火）

午後7時30分～9時

■会場／プラザ西伯

■講師／藤井輝明さん

（鳥取大学院医学系研究科教授）

